

どっこい生きてます!



後期高齢者(75歳)の仲間入りをした栗原豊センター長の誕生日(2月13日)を祝う会が2月25日、行方市白浜のレイクエコーで開かれ、関係者約250人が参加して盛大に祝いました。夫人のルミさん(女性ハウス施設長)とのラブストーリーの紹介や家族・親族のビデオレターなど趣向を凝らした企画やパフォーマンスが盛り込まれました。最後にはセンター長が関係修復を図った二人の娘さんとハグする場面もあり、目頭を熱くしました。(4~5ページに記事、背表紙に写真)

2018

2

クリーンを重ねた 「老い」は 勇気と希望を与える



例年になく体にこたえる厳しい寒さも底を打ち、日増しに春の訪れを感じられるようになりました。皆様お変わりありませんか。私の方は2月13日に節目となる75歳の誕生日を迎える事ができました。社会問題となっている認知症には至っていませんが、大事な場面で人の名前が出てこなかったり、メモしておいたはずなのに約束を忘れて相手に迷惑を掛けたりするケースが増えました。それだけでなく長期のアルコール&覚醒剤依存の後遺症で、これまでも挨拶中に頭が真っ白になって言葉につまる場面が何度かありましたが、このところの失敗事例を自分なりに冷静に分析すると、どうやら急激な「老い」が作用しているようにも思えます。うまく言い表せませんが、まるで“思考の空転”とでも言うべき事態が、私の脳細胞に襲来しているのかもしれない。

でも、考えてみてください。人間の「老い」はとても個別的で、実年齢によって一括りできるものではありません。同じ75歳でも80、90歳の衰えを感じさせる人もいれば、既に鬼籍に入っている人も珍しくありません。逆に私よりも若々しく、はつらつとした人生を歩んでいる方も見受けれます。そう思えば重症のアル中・ヤク中だった私が、こうして仲間の中で命をながらえられ、仲間の回復を手助けするという役割を与えられていることに、ひたすら感謝です。反社会的な世界にしか居場所を見いだせず、失敗続きだった私が60歳にして「人間は生まれ変わる」生き方を、曲がりなりにも続けられるのは正に奇跡です。その意味で私は「生きているだけで儲けもの」なのかもしれません。

ところで私達アディクトには、実年齢とは別にハイヤーパワーが与えてくれた「クリーン年齢」があります。これはアルコールや薬物、ギャンブルに頼らない新たな人生の霊的な歩みが、私達にもたらししてくれる至福の時間(クリーンタイム)のプレゼントです。一般の人には理解できにくいでしょうが、私達にとっては自然年齢以上に大事な人生の潤滑油なのです。自助グループには何十年とアルコールや薬物、ギャンブルを「とめている」仲間も多く、中には半世紀を超えるクリーンタイムを誇るオールドタイマーもいます。そうした先行く仲間は優しさと愛に満ちており、他者にも自分にも謙虚な姿勢を保ち、考え方も嫌味がなく、とてもシンプルで無理のない生き方をしています。それに比べたら、私のクリーン年齢はやっと15歳ですから、まだまだです。ダルクで言うなら35年以上のクリーン実績を誇る近藤恒夫さんが、私の良き手本です。

それにしても今の世の中は誰にも訪れる「老い」が、ともすると経済的な効率性の尺度で計られて、長生きすることを遠慮がちになる空気を感じます。でも、依存症の世界ではクリーンを積み重ねた「老い」は、周囲に勇気と希望を与えてくれます。手前味噌になりますが、こんな私でも潮騒ではクリーン最長です。そうした意味合いを含め今回、潮騒の仲間達が節目の75歳を祝う会を開いてくれました。会場の人々と回復の喜びを分かち合うことができ、新たなエネルギーを得ました。命ある限り、生涯現役で頑張ります。

(センター長 栗原 豊)



東松山市保護司研究協議会の一行14人が来所 ～ 研修で潮騒独自の就労支援や介護事業に新鮮な印象を抱く～

犯罪や非行に陥った人達の更生を下支えている東松山市保護司研究協議会(埼玉県東松山市、中嶋栄会長)の一行14人が2月5日午後、潮騒ジョブトレーニングセンターを視察研修で訪れ、潮騒JTCが取り組む農業を主体にした就労支援の取り組みや自立援助、新たな試みとして力を入れる高齢依存症者の介護(デイケア)を担当者が説明し、保護司の皆さんが熱心に耳を傾けました。予定では潮騒農場などの現地を視察する計画でしたが、室内での講話が濃密だったのに加え、保護司の皆さんからの質問が相次ぎ、現地見学は次回に譲ることになりました。

研修は鹿嶋市宮中の潮騒アディクションビレッジ会館4階の会議室で行われ、冒頭で栗原センター長が自らの依存症人生を披歴し、自分を見放した家族の中で最後まで自分を慕った次女との苦い思い出を話しました。「私が2度目の覚醒剤事件で逮捕された時に、一緒に暮らしている当時中学生だった次女が“お父さんが(刑を終えて)帰ってくるまで待っている”と担当刑事に話したことを知らされ、覚醒剤ときっぱり縁を切る決意をした。でも、結局は世界で一番いとおしい娘のためでも止められなかった。なので依存症は刑罰では治りません。依存症は病気だからです」と述べ、更生保護の活動にも医療と福祉の

連携を求めました。

続く講話では、最初にギャンブル依存症の当事者でもあるスタッフのタチさんが、自身手作りの分かりやすいデータを駆使したパワーポイントを使い、依存症を多角的に解説しました。また、就労支援の中核として注目を集めている潮騒農業については、農業隊リーダーのヒトシさんが映像を使って報告。「試行錯誤の末に一定の地歩を固めてきたが、仲間のスリップや金にならないならやらないなどクリアすべき課題も多い」として、実績よりも回復を最優先にした取り組みであることを力説しました。

さらに潮騒の関連事業である「デイサービス百寿」代表のマコトさんは、高齢入寮者の急増によってニーズが高まっている認知症を併発している高齢依存症者の受け皿として機能している様子を紹介。難産の末に介護認定問題のハードルをクリアしてからは地域の一般利用者にも信頼を得ており、「立場はどうあれ介護が必要な高齢者の大事な居場所になっている」と話しました。参加者からは質問が相次ぎ、最後に中嶋会長から「とても分かりやすい説明で、依存症について理解を深めることができた。今後の私達の活動に生かします」とお礼の言葉が述べられました。(潮)

栗原夫妻ケーキ入刀

この日、会場のステージ正面には、赤い「祝」の文字に「栗原豊センター長75歳の誕生日おめでとうございます!」と書かれた大きな看板が設置され、進行はエイサー(琉球太鼓)には欠かせない白塗り顔の道化師(ちょんだら)と女性ハウス「るみの家」メンバーのメイさんの二人が担い、掛け合いの司会で終始会場を盛り上げました。プログラムは潮騒エイサーの演舞で幕を開け、次いで入寮者や支援者による手作りの「祝いのまとい」が登場、和太鼓演奏の経験のあるメンバーが重たい特注のまといを勇壮に担ぎ上げ、舞台に花を添えました。

ルミさんが「本日の誕生会はセンター長の60歳からのクリーンの歩みのエポックとなるもの。今日は女性ハウスの施設長ではなく、妻として一日寄り添います」と挨拶し、「センター長とゆかいな仲間たち」と題したパフォーマンスでは、エイサー隊などが見守る中、何も知らされていない栗原センター長とルミさん夫妻が、女性ハウスによる手作りの模擬ケーキ(会場内は飲食禁止)に入刀する演出がありました。また日本ダルクスタッフのマーシー(田代まさし氏)と近藤恒夫さんによる、ユーモアあふれるビデオメッセージも流されました。

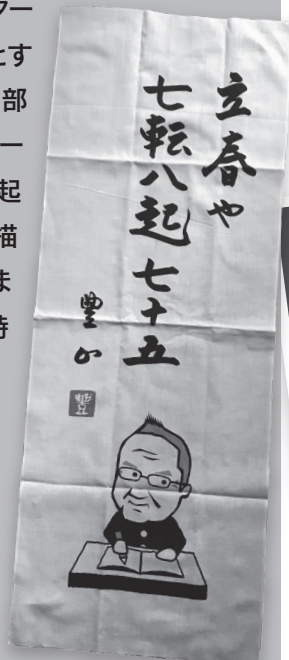
センター長 栗原豊 75歳おめでとう!

これまで栗原センター長の誕生日には家族による食事会で祝ってきましたが、節目の年齢を迎えて特別な感慨と決意を抱くセンター長の思いに寄り添い、潮騒の仲間内レベルの祝う会から、入寮者と職員、関連施設の高齢者デイサービス「百寿」や潮騒家族会、NPO理事や支援者、センター長が学ぶ高校の教員の方にも喜びを共有してもらえたら、と少し広げて声を掛けさせて頂きました。その結果、バースデー・イベントとしては異例の約250人規模になりました。

内容についてはよくある安易な“感動の押し売り”場面や堅苦しい挨拶、長いメッセージは省き、会場の参加者を巻き込んで一緒にステージを楽しみ、笑いのうちに栗原センター長の誕生日を祝う「参加型」とすることになりました。なお外部参加の皆様には、栗原センター長自筆の俳句「立春や七転八起七十五」と似顔絵イラストが描かれた手ぬぐい、それに紅白まんじゅうを記念品としてお持ち帰りいただきました。



手ぬぐいのイラストを担当したセンター長の姪のroba(右)と。



記念品として配られた手ぬぐい▲



▲祝いのまとい



▲近藤さんのビデオレター

▼マーシーのビデオレター



▲お借りした会場が食品の持ち込み禁止だったので仲間たちの手作りのクラフトケーキに入刀した

司会を務めた
チョンダラのヒトシ(左)とメイ▶



センター長は百寿に入所可能か?!

プログラム後半は、支援者の尽力により演歌歌手の川島有紀さんが特別出演、二曲を歌い75歳を祝ってくれました。会場の参加者を交えた「センター長と遊ぼう」ゲームでは、指名を受けた支援者や家族の方などが登壇し、与えられたテーマに沿う人物を会場内で探し出して優劣を競うものでした。「今もクスリを使っている人」など“難問”が与えられ、依存症施設ならではの“自虐的”テーマが笑いを誘っていました。

この後、施設内の各部署の企画があり、恥じらいを感じさせながらも職員チームが登場してダンスパフォーマンスなどを披露してくれました。百寿チームは、体に入れ墨があり小指のない元ヤクザのセンター長が、百寿に入所するという独自ストーリーの映像作品を制作。一般の高齢者介護施設では受け入れを拒否されても百寿では「行き場のない人を職員がで全力でサポートする」ことを、説得力ある映像作品でアピールしました。



▲潮騒スタッフによるパフォーマンス



▲ご来場いただいた支援者参加型の探し物ゲーム

親族のビデオレターに涙

庄巻は女性ハウスによる語り劇「豊&ルミ15年間のラブストーリー」。ステージ中央に二人のラブラブ写真が置かれ、両側には若かりし頃のセンター長とルミさんの写真が配置されました。二人の出会いに始まり、二人三脚で施設運営の困難をクリアしながらも、幾度かの離婚危機を乗り越えてきた二人の歩みが見事に物語風にまとめられ、会場から温かい拍手が送られました。

終盤には、センター長にはまったく内緒で制作された家族や親族のビデオメッセージがサプライズで流され、子や孫、いとこ、兄夫婦、姪らが次々と祝いのメッセージを送りました。中でも二人兄弟の実兄はセンター長とは対極的な実直人生を歩み、国立病院事務長を定年退職後は面倒な会計作業で当初から潮騒を下支えし、数年前に病に倒れてからは自宅で介護生活に励んでいます。映像では若い頃から苦労を強いられながらも実弟の75歳の誕生日を祝い、涙しながら「おめでとう」とねぎらいの言葉を掛けてくれました。またセンター長とは幼馴染みで、潮騒の就労支援活動を支えた元造園職人のシンさんも病床からお祝いの言葉を送り、センター長の涙を誘っていました。



▼女性ハウスによる語り劇

実兄夫妻からのビデオメッセージ▶



センター長の娘達が登壇

これを受け栗原センター長が登壇し、「60歳まで語り尽くせない経験をし、それまで人間失格の人生だった私が、スポンサーであるトム（坪倉洋一）さんと姪の導きでダルクに繋がり、今の私がある。生きている限り、全身全霊をもって仲間の支援を続け、人生やり直しができる見本でありたい。たとえ擬似的でも仲間は一つの家族。私は家族の責任者であり父親として、未知の仲間達に救いの手を差し伸べたい。依存症だけでなく障害を超えて居場所のない人達への支援も惜しまず、もっともっと支援の輪を広げたい」と決意を示しました。

最後には二人の娘さんが登壇しセンター長に花束を贈りました。長女は「神様のように扱われて少し違和感を覚えるが、実は不出来な父です。でも、大変な思いをされている方々には、幸せな生き方の手本になるかもしれません。これからもどうか宜しく」と述べ、次女も「皆さん褒めすぎです。仲間の命と人生を背負っているので、身の丈に合った活動で皆さんを支えてください」と助言。センター長が二人に「お父さんと呼んでほしい」と促し、二人はこれに応じて会場の盛り上がり最高潮に達しました。栗原センター長が「15年間、この言葉が聞きたかった。これを励みに迷惑を掛けた人達や社会に対して、これからも埋め合わせを続けます」と締め括り、長丁場のイベントが幕を閉じました。

▼花束を贈り父の75歳を祝う長女(左)と次女





依存症者向け介護サービス「百寿」のマコトさん



農業隊リーダーのヒトシさん

北関東アディクション関連問題検討会

潮騒独自の就労支援の取り組みを映像などで報告 依存症者向け介護サービス「百寿」の事業も紹介

茨城県など北関東地方の薬物問題について考えるセミナー「北関東アディクション関連問題検討会(第135回北関東薬物関連問題研究会)」が1月27日、水戸市の茨城県精神保健福祉センターで開かれ、県内の医療・福祉関係者など約50人の参加者を前に、潮騒 JTC の就労支援活動や依存症者向け介護サービス「百寿」の取り組みについて、担当部門の責任者が報告させて頂きました。

潮騒の就労支援の根幹である「農業を通した就労支援」については、農業隊リーダーのヒトシさんが、ハローワークでの求人に応募してもなかなか採用に結びつかず、運よく就職できてもスリップ(薬物再使用、再飲酒、ギャンブル再燃)するなど、回復が難しい依存症者の就労問題に風穴を開けるために、あえて高い志を示す「生活保護受給者から納税者へ」をスローガンとして、独自の農業プログラムが始まった経緯を説明しました。

農業プログラムは▽過去の就労経験を生かした職業訓練▽マンパワーを生かし自力で受け皿作り▽自然と

の一体感、生産の喜びと達成感—などの観点から「環境や条件が整えば、アル中、ヤク中、ギャンブル依存症その他もろもろの病気の仲間でも仕事はできる」として始まりました。

講演でヒトシさんは時折開墾や農作業、干しイモ作りの様子などの映像写真を交えながら「僕たちはとても自己否定感が強い。自分自身に対する自信がありません。けども農地を開墾することで『ありがとう』、お米を食べてもらって『おいしかった』と言われることが自信につながります。ここでも仕事ができるという結論になりました」と話しました。

課題として▽「金にならないならやりたくない」▽地域へ向けた依存症理解への活動の不足▽就労困難な高齢者、重複障害者への支援▽就労時間と自助グループ参加への両立問題—があり、今後の就労ビジョンとして▽「就労支援プログラム」による自立▽「半就労・半福祉」で焦らず、じっくり社会復帰を一などを掲げました。

続いて、依存症者向けデイサービス「百寿」の運営に当たるマコトさんが講演し「施設にいる約200人の入寮者

うち、3割から4割が60歳を超えている。その中で必然的に介護や認知症を併発してしまって、なかなか施設でのプログラムを受けられない事態になってしまった」として、鹿嶋市内の医療機関や介護施設などに打診したが「今までに受け入れをしたことがないので受けることができない」などの反応が大多数だったことから、「何とかしないといけない」として介護サービスが始まりました。

2015年のスタート当時は10人規模のサービスでしたが、今では定員を36人に増やして、介護が必要な潮騒の仲間と、地域の介護が必要な人を受け入れたり、14人の職員のうち4人が依存症の当事者や依存症者のケアができる人、という現状を説明しました。

また、就労支援の取り組みの一つとして、潮騒で一定の回復をした人をデイサービスの介護士として職業訓練として来てもらい、時間を掛けて就労支援をしていく試みを始めました。現在では成功例もありますが、当初は「頑張れるけど長続きしない。バーンアウトしてしまう」などの失敗もありました。そこから「半就労・半福祉が一番望ましい」として短時間就労に切り替え、本人の回復を保ちつつ就労していく方法を取りました。

講演を聞いた茨城県こころの医療センターの小松崎智恵医師は「就労支援をその人に合わせて考えていかないといけないと思った」、精神保健福祉士で「ジャパンEAP システムズ」執行役員兼東北支社長の高橋尚子さんは「発想の豊かさ、展開が素晴らしいと思った。自分たちの施設で終わるのではなく地域とつながっているのが素晴らしい。依存症の人の特徴をとらえていることが当事者ならではの発想」と、それぞれ話しました。

同検討会は、主に行政・医療司法教育関係者を対象に依存症連問題の理解深めると同時に関係機関との連携を強めること目的に栃木県と茨城県とを交互に会場にして毎年実施されています。県精神保健福祉センターによると、残念ながら次回開催でその役割を終えるとのことです。(サッキー)



依存症問題などで 企業にEAP導入を促す

同検討会では潮騒 JTC の報告に先立ち、幅広い視点から企業へのメンタルヘルス支援をしている「ジャパンEAP システムズ」の高橋尚子さんが、アルコール依存症の企業内における就労支援について基調講演しました(EAP=従業員援助プログラム)。

高橋さんは大学を卒業して医療機関に就職。アルコールの専門病棟に配属されて、よく患者のトラブルに巻き込まれました。13回も入退院を繰り返す依存症患者らに接してきた経験から鍛えられ、依存症について理解を深めました。問題の背景に酒に寛容な日本の企業風土があり、「そもそも組織の中に依存症が病気という認識がなく、この問題は企業の中ではなかなか受け止めにくい」と実感したといいます。その後、ジャパンEAP システムズに入社して産業分野でのメンタルヘルスに関わり、企業向けカウンセリングなどで活躍しています。

高橋さんは米国におけるAAの成り立ちを踏まえながら、「アルコール依存症の人が自発的に相談に来るのを待つだけではうまくいかない」「どう対応すれば本人がお酒の問題に気付いてくれるかを、周囲を巻き込んで支援しています」。社員だけではなく企業全体にも働き掛けて、どうしたら共に健康なウインウイン、ハッピーな関係になれるかを探っています。米国では政府も企業もアルコール依存症者を排除するのではなく、回復してもらって雇用を継続していく流れができ、今では優良企業の多くがEAPを導入していると解説しました。

日本でも、企業内でのうつ病や自殺、依存症などの問題が深刻になり、メンタルヘルスの対応が求められています。しかし、「企業は大きな問題が起きないとアルコール問題を深刻にとらえてくれません」「健康診断などではなかなか表面化してきません」とし、仕事のパフォーマンスが下がることを踏まえ、もっとEAPの導入をと促しました。その上で「私自身が一番大事にしているのがカウンセリング。目の前にいる人にどう寄り添って、どう対応していくか、その人が今何を大事にして、これから何を大事にしていこうか、というのを意識してやっています」と自分のスタイルを話しました。潮騒にとっても参考になる講演でした。



ダルクは医者が関わらなかったから良かったんだ

——前回の終わりに自助（セルフヘルプ）グループに話が及びました。原則アノニマスなのですが、ここは施設の機関誌なので多めに見てもらいます。AAやNA、GAなどですけど、世間からすれば水面下の活動だけに、なかなか実相が伺い知れません。NAについてですが今、全国に何力所くらいありますか？

近藤 400くらいじゃないかな。それくらいの会場でミーティングをやっていると思うよ。

——例えば、日本ではNAのコンベンションにはどれくらいの人達が集まるんですか？

近藤 北海道では800人くらい。東京だと1500人。AAなら3000人くらいじゃないかな、断酒会も同じくらいかな。

——やはりアルコール依存症が本家ですからね。ところで、この国に断酒会が生まれた背景や流れは、ダルクが日本で生まれた形と似ていませんか？

近藤 う〜ん、どうだろう？ 性格やあり方からして違うんじゃないか。断酒会は最初は医者が絡んでやったんだよね。でもダルクは医者が関わらなかったから良かったんだ。そこは決定的に違う。そうはいつでも依存症はどうしても家族を巻き込み、家族が抱え込んでしまう病気の側面があるから、家族の問題は切り離せない。そういう意味では断酒会が家族にも比重を置くのはそれなりの根拠があるんだろうな。でも、よくいるでしょう、医者にコメつきバツタのようにへばりついている人、いるじゃないですか、

回復した仲間が外からダルクを支える流れにはなかった

連載
第8回

家族の中に。あれじゃだめだね。自立していかないと。

マックには仲間が外から支えてくれているという感じが…

——断酒会の話は置くとしても、この国では家族の関わり方は確かに難しいですよ。これは素人判断なんですけど、外側から見る限り断酒会よりAAの人たちはとてもパワフルに思えるんですが…。

近藤 どうだろうなあ、俺にはよく分からないが、まあAAに集まる人達にはそれこそ社会で何とかやっていける人たちが多いからだろうな。なかには東大卒の人達もいるしな。同じ依存症でもアルコールの場合は酒飲みながらも何とか仕事をやれる。やがては潰れるとしても、そんな社会性が背景にあるのかもしれないね。AAメンバーには「これは危険だな」とか「これは自分にとっては得しないな」とかの、そうした目利きがあるように思える、まあ俺の知る範囲での感想なんだが…。

——どうなのでしょう、そういうパワフルな底力があるならもっとマックの活動も活発になっていいんじゃないかな、と勝手ながら思ってしまうんですが…。そのところはダルクと比べてどうですか？

近藤 マックのことは今の俺にはよく分からない。かつて世話になった経験を踏まえていけば、俺自身の勝手な見方にすぎないんだが、マックではこのようなところにもうだつがあがらないとかで、なかなかスタッフが育ちにくい雰囲気があるんじゃないかな。俺からしたらマックは一種の“閉鎖空間”のような感じだったから、結果的

には窮屈なので飛び出てしまったんだが…。昔の話だけどね。でもマックには、「仲間が外(社会)から支えてくれている」というようなエネルギーを感じてはいたよ。当時の俺の感覚では、マックは仲間の「稼ぎ」で支えられている、っていう感じだったね。

——じゃあ近藤さんがつくったダルクはどうなんですか？

近藤 そこが俺にとっては大いなる誤算だったんだな。曲がりなりにも社会復帰した連中が、今度は自分で稼いだ金の一部を献金して支えてくれるだろう、そういう希望的な観測というか、甘い読みがあつたんだが、それらは完全に外れたね。それは大きな狂いだった。だって、「ダルクで私は助かりました！」というなら、「1000円で2000円で献金しよう！」となるのが心情つてもんだろ？ところが、そんな奇人な人？は一人もいないからね、それは凄から。30数年過ぎてもないから、ここところは唯一、俺の大きな勘違いだったな。

ダルクにマーシーが繋がった意味はまだ分からない

——それはなぜなのでしょう？いくら新しい人生を手にして霊的に目覚めても、そこまで精神的に余裕が持てないということでしょうか？

近藤 難しいね。いろんな理由が考えられるけど、やはり社会的に見ればヤク中はアル中よりも低い階層に属するという人達が多いということかな。

——いくら回復者として社会に戻っても、仲間の多くが経済的な意味では「贈与」を考えるだけの余裕ある暮らしが出来ていない、という重い現実が壁になっているんでしょうか？

近藤 おしなべてダルクに来る連中には低学歴者が多いからな、職歴といえどせいぜいコンビニの店長くらいしかやってきていない。まともに働いた経験さえないというヤツが多いのが実態だろうから、AAのように建設業界の社長とか、そういう手腕と技量のあるような男気のあるヤツは生まれにくいかな。今もってヤク中からは経済的な成功者が現れない、日々食うことに追われていたら、そりゃあ「ダルクで助けられた！」という感謝なんて関係なくなっちゃうもんな。みんなダルクにはそんなにいい思いはないのかね？

——食うことの現実というか、そうした生活実感の方が回復よりも先に立つのかもしれないね。そこで視点を変えて考えたいのが、近藤さんの熱心な後押しを得て、ダルクに繋がったマーシー(田代まさし氏)の存在です。彼がダルクに登場した意味なんですが、ダルクの

広告塔とかになっているとか、講演でパフォーマンスしてしっかり稼いでいるとか、一部にはやっかみや反発もあるようなんですが、彼の持つ文字通りのタレント性やエンターテインメント能力を生かしたメッセージもありだ、と僕らは思うんですがどうですか。

近藤 ありだと思う。だって彼からプログラムの話を聞こうという人はいないと思うよ(笑)。このまま彼がクスリをやめて、仲間のためにどうするか？そこは未知数だな。あと5年ぐらいたたないと分からない。そうしたら自ずと彼の役割が違ってくるかもしれない。誰にも、彼の先のことは分からない。

——回復の在り方は基本、アノニマスですよ。マーシーも無名の薬物依存者の一人な訳ですが、でも一方で彼は過去に芸能界という人気商売で生きてきた。それを桎梏ととらえるか、逆にメリットと考えるか、とても悩ましいところです。彼はこれまでダルクが経験してきたことがない困難や重荷を背負っている、とも言えますが…。

米国のようにセレブ向けの回復施設があればいい

近藤 アノニマスといっても、彼の顔をみればすぐマーシーと分かるからな。そこはプラスもあればマイナスもある。

栗原 困難を承知でマーシーがダルクに繋がったのは凄と思います。私としてはメディアでさんざん叩かれた“打たれ強さ”を武器に回復してほしいし、見習うべき新しい回復の要素を感じます。

——それこそ米国のようにセレブ向けの回復施設があれば、と思いますが。

近藤 そうだね。アメリカじゃセレブ系向けのリハビリ施設が流行っているからね。セレブはどのくらい入寮費を払っていると思う？800万円だって。とても日本じゃ考えられないよな。

——依存症についての文化というか風土の違いを感じますね。

近藤 とにかく日本じゃ一貫して刑務所任せだからな。何もかも一緒くたにしてな。ダルクなら、その流儀でいいんだが…。

栗原 私の経験からも刑務所では依存症についてほとんど理解が及んでいないと実感してます。最近、若干動きが感じられますけど、まだまだです。どうやら回復についてのベクトルが違うようですね。厳しい規則に従う指導では病気は良くなりません。一番大事な部分が欠けている。

——紙面の都合で今回はここまでとします。

(司会進行・広報部)

受刑者からの手紙

当たり前と思っていた日常が当たり前ではなかったとつくづく実感

栗原さん、私は刑務所を昨年7月に仮出所したものの、9月にある事件で怪我を負い、その際に尿検査後再逮捕となりました。私自身また受刑生活を送る事になった事を恥ずかしく、とても情けなく思っています。ですが、正直もうどうにもなりません。普通に日常生活を送る事さえ出来ないのですから、本当にどうしたら良いのでしょうか？ 今回の公判に際し、弁護士先生から栗原さんの元へ連絡をしてもらう様にお願いしたのですが、連絡はありましたでしょうか？ 先生とは2、3度しかお話が出来ず、接見要望を出しても来てはもらえないので、確認の意味も含めて連絡させて頂いた次第です。有難い事に“情状証人は”、勤め先の社長が出廷して下さい、との事なのですが、栗原さんにも出所後のプログラムを受ける旨等について、上申書の様な形でどうか宜しくお願い致します。当たり前と思っていた日常は、実は当たり前ではない、という事をつくづく感じます。今はただただ悔やむばかりです。とにかく目の前の事を一つ一つ乗り越えて、普通の人間として社会で生活を営める様に、もう一度出直したいと思います。栗原さん、面倒をお掛けして申し訳ありませんが、何卒宜しくお願い申し上げます。

(神奈川県 K・S)

P. S. 弁護士の先生からは、公判の際に覚醒剤を“次こそは何故止められるのか？”その理由を考えておく様に言われましたが、もしそんなものがあつたのなら、私はここにはいなかった、と思います。今回私がやってしまった不徳と甘さについては何も言い訳出来ません。しかし病院にも通い、福祉施設のカウンセラーとも話をさせて貰ってきましたが、止められない事はショックでした。留置場での生活も1カ月を過ぎ、私は今回で4度目の受刑となりますが、頼りにしていた友人・知人とも連絡が取れなくなった事で、身動きもとれなくなりました。所持金も残り僅かとなり、用意して来た衣類すら手元に届かない始末です。こんな不安を抱えたまま、懲役に行く事に成るのも初めての経験です。きっとこれが“底つき”と云う物なのでしょう…？ 本当に淋しいものです。

とにかく溜息ばかりです。事件当時、付き合いをしていた者達とは、連絡を控えてきたのですが、この状況が続いてると迷いも出て来ます。人間って本当に弱いものですね。それとも私だけなのでしょう…？ 私は卑怯者でしょうか…？

静かな時間の中で何もやる事が無い、というのは中々辛いもので、考え事ばかりしてしまいます。刑務所へ堕ちていく過程で心の拠り所が無い、と云うのは刑務所の檻より辛く寂しい檻だなあ、と思いました。栗原さんも、皆様も通って来た道のりだ、と思います。アドバイス等を頂けましたら幸いです。

刑務所移送になり身元引受人は栗原さんをお願いしたい

寒さも本格化した今日この頃ですが、如何お過ごしでしょうか？ 私は相変わらず元気に反省の日々を送って居ます。さて、今回お手紙しましたのは、先ごろ判決があり、無事に裁判が終わりましたので、その報告でお手紙しました。判決は2年でした。正直もっと重いのでは、と思っていましたので安心しました。2年で済みましたのは、栗原センター長が忙しい中、情状証人になってくれたお陰と思い、深く感謝しております。本当に有難う御座いました。刑が確定し刑務所へと移送になりますが、身元引受人は栗原さんをお願いしたいと思っておりまして、どうぞ宜しくお願い致します。私も今回の判決を真摯に受け止め一日も早く出所したい、と思っています。先日シゲさんからもお手紙を頂き、私と同じ依存症という病気を抱えた仲間が娑婆にいる事を、心強く感じています。その仲間とプログラムを通して一緒に回復していけたら、と思います。

まだ懲役が始まってもいませんが、早く潮騒に帰りたい、と思っています。寒さ厳しくなり風邪など引かぬ様にご留意、ご自愛下さい。シゲさんにも気軽に手紙を書かせて頂きますので、「潮騒の事を先輩として、色々教えて欲しい」とお伝え下さい。

(北海道 M・M)

依存症にとって孤独は大敵だが、裁判中にある囚われの身にとっては、それほどマイナス要因ではないように思います。昔、政治犯らは「学習の場」として自分の思想をより強固にするために逆利用しましたが、これに習えば本手紙の中にあるように、受刑者も自らの犯した罪を見つめ、反省する機会として逆利用できると思います。

人間はどんな状況でも “適応能力”があると思う

私も今年は潮騒の方で、お世話になりますかどうか、宜しく願い致します。私は右も左も、分かりませんが、施設内は、集団行動ですよ？ 十人十色で色々な人がいると思います。段々と出所が近づいていく中で、多少の不安もありますが、人間はどんな状況でも、“適応能力”があると思っています。なので、私自身もその辺りは大丈夫だと思います。

しかし、私にとって一番肝心な事は「果たして依存症は治るのか？」という問題です。完治しないのは分かっているのですが、ステップ12に行けば本当に大丈夫なのか、多少不安があるのは仕方が無いと思っています。「薬物依存症は本当に恐ろしい不治の病」と、先日ある新聞に書いてあったのを思い出して、今年中に潮騒の方でお世話になろう、と思っています。今私は本当に“不安になって”いる一人です。この先も色々とお世話になりますが、宜しく願い致します。

(北海道 N・S)

判決までに自分の犯した罪を もう一度見つめ反省していく

寒い毎日ですが、潮騒の皆さんは変わりありませんか？ 私は先日の裁判で“被告人質問”がありました。弁護士とは、打ち合わせが在ったもので大丈夫でしたが、検事質問は今一つでした。良い方向に行ったと思います。判事さんは「出たらどうしますか？」と言っていました。私は出たら病院に行って糖尿病と脳梗塞を見て貰い、その後に潮騒ジョブトレーニングセンターに行って覚醒剤の治療をします。センター長から頂いた手紙を裁判所に提出しました。

皆さんには、いろいろとご心配をお掛けしましたが、間もなく求刑です。どうなるかは分かりませんが、頑張って行きます。判決まで時間があるので、自分の犯した罪をもう一度見つめ、反省していきます。舍房は雑居で4名で生活をしています。センターの皆さんは季節ごとに多様なイベントがあると思いますが、健康に気を付けて明日に向かって頑張ってください。

(千葉県 I・K)

文芸コンクールで今年は俳句の部で銅賞(3位)を頂く

全国的に寒さが厳しく、ここも毎日の様に厳しい寒さが続き、これまでの刑務所生活では経験した事の無い様な寒さに身も心も毎日、震え上がっております。昨日までは雪が降って居りましたが、今日も一段と寒く手に息を吐きかけながら、この手紙を書いて居ります。今更このような事を言っても仕方が無いのですが、今回の受刑生活は本当に辛く、厳しい務めになっています。はっきり言って二度と刑務所には来たくありません。これが私の偽らざる本音です。さて本日は私事で恐縮ですが、報告があります。まず今年に入ってすぐに、工場の計算工に任命され、同時に工場の配食係及び理髪係までやる事になりました。この歳になつての計算夫は本当に大変で、毎日目が回るような忙しさです。それでもやり甲斐がありますし、一日一日があつと言う間に過ぎ去ります。責任のある作業なので、今はとにかくしっかり頑張っています。そして2月1日付で優遇の2種になりました。2種といっても大した事は無いのですが、それでも髪を伸ばす事が出来、朝の検身もフリーパスで通過する事が出来ます。それから、“文芸コンクール”に於いて、今年は俳句の部で銅賞(3位)を頂きました。昨年は銀賞(2位)でしたので、今年は金賞(1位)を目指していましたが、残念です。それでも短歌の部で佳作を取りましたので、ダブル受賞という事で賞品も二つ貰いました。これも全て、ご指導を頂いた栗原センター長のお陰です。心より感謝しています。

(福岡県 H・S)

しおさい、俳壇

2月のお題

寒 椿

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.49

センター長 栗原 豊

出所日は同囚イラン人の依頼事に振り回される

私には前橋刑務所を満期出所したら、真っ先にしなければならない「仕事」があった。それは獄中で仲良くなった、イラン人の覚醒剤売人から依頼された「約束」を果たす事だった。前橋刑務所からそう遠くない市内の神社の石塔の下に、チャカ(拳銃)と覚醒剤をビニール袋に入れて埋めてある。目印として、その隠し場所にはクギが刺してある。それを掘り出してうまく処分してくれ、というものだった。でも考えてみれば、これは大いなる自己矛盾で、おかしい話だった。だって、ついさっきまで「もうアルコールと薬物は懲り懲り、きっぱりと断ち切る」と不退転の決意をしていたのだから…。

ともかくも私は姪の車の中で、刑務所内でそのイラン人と仲良くなったいきさつや所内での生活ぶりを説明した。「実はな、同囚のイラン人から大事な秘密を打ち明けられたのよ。そいつが逮捕される直前に、この近くの神社の境内にシャブを隠したっていうんだ。はっきりした場所は分からないんだが、結構な量らしい。出所したら、なるべく早く掘り出して、それを処分してくれ、って言うんだ。大丈夫、イラン人でもあいつは信頼できるやつだから」と力説した。初めは半信半疑だった姪も次第に身を乗り出してきた。私より先に自助グループに繋がった先輩回復者とはいえ、やはり彼女も本質的にはヤク中である。運転しながらもどこかそわそわしている感じが伝わった。ヤク中の勘というやつだ。

私は受刑中、イラン人から教わった隠し場所を頭に叩き込んでいた。10分ほど走ると市内中心部にある神社に到着した。すぐに二人で目印の石仏を探した。それらしい石仏は見つかるが、地面に刺したクギは見当たらず、周囲を探ってみても目的のブツは現れなかった。そんなふうにして市内にある神社を数カ所、夢中で探し回っていたら時刻は午後3時を過ぎていた。事情を知らない人が見たら、父と娘の親子らしき二人が血眼になって神社を探し回っている姿に、いったい何をしているのか? といぶかしむだろう。狂ったように、ではなく、その時は二人とも薬物探索行動で本当に狂っていたのだと思う。今思い出しても、あれは何とも不思議な光景だった。(次号に続く)

山の駅
乗客ほどの
寒椿

あへ

寒椿は山茶花に似た椿で寒中に咲くのでこの名があり、俳句では藪椿など冬に早咲きする椿も冬椿と言う。山国の旅をすると駅の近くの山や家の庭に四季の花が咲いて旅情を添えるが、山の駅で乗客ほどの寒椿の数と言うのもほつほつ咲く寒椿の形を表わして心和む句。

特選句

寒椿
心の晴れし
今朝の庭

なん

人は言葉や風景などでも心和むが、花もまた安らぎを与えてくれる。冬の花の少ない時に朝の庭に咲いた紅の一輪はもやもやした心も晴らしてくれるし、花を愛せば花からも恵を授かる、その人も優しい人と思えます。

特選句

二人して
歩きし道の
寒椿

かこ

椿は安房や伊豆の海岸が名高いが、この詠は何処の道だろうか? 恋人岬なども想いますが、寒椿に昔の思い出を偲び少しの哀れとロマンを誘う句です。また伊豆は私にも「伊豆は山中乙女の声の藪椿」があり、懐かしい。

特選句

秀逸句

今月の秀逸句

庭先に
たった一輪寒椿

れいこ

花は公園の花壇や桜並木の様に多く咲くのも美しいが、咲き始めの一輪や葉隠れの一つも可憐で美しい。また花には女性を連想して多くの歌謡や和歌が詠われる。それらを思う艶冶を秘めた句です。

寒椿
どこぞ似てゐる
亡き母に

まこ

古来から「立てば芍薬座れば牡丹歩く姿は百合の花」がありますが、また向日葵には元気な青年、水仙には伶人など想う。若い頃の母は子供から見ても若く綺麗な母で在ったのだろう、寒中の椿も少しの哀れを込めて美しい句。

朝靄の
中に見つけし寒椿

ひろ

この鹿島潮来の水郷地帯は川や湖沼が多く、温度変化で風や靄(もや)が発生し易いし、鹿島灘は親潮黒潮の合流で海霧も多い。そうした靄の朝に見る寒椿は格別に美しく、芭蕉の「象潟や雨に施西が合歡の花」を想う句です。

寒椿
咲ひて小雪の薄化粧

しげ

今年は北陸地方は大雪で難儀だが、この鹿島にも少しの雪が降った、その中に咲く椿は女性の薄化粧を思わせて艶冶を誘う美しい句です。

寒椿
一つ葉隠れ恋心

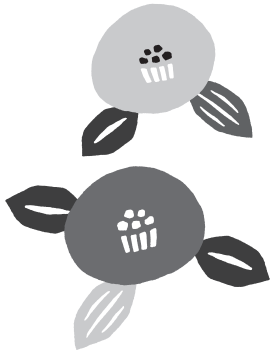
ビート

色は黄は明るく、白は清純、紅は情熱、紫は恋などを思い、また多く咲くより葉陰に一つ咲く花に心惹かれます。それは多くの中から見つけた恋人の様な思いでもあります。

花びらに
そつと触るるや寒椿

みく

子供は綺麗な花にはすぐ触れるが、大人でも寒中に咲く花は愛しく思はず触れて見なくなる。花によりざらつくのや人肌の様なや匂いのあるものもある。少しの艶冶を誘う句です。



佳作

あでやかや雪の中なる寒椿	メーテル	寒椿白銀の中美しき	めい
谷空に寂し気に咲く寒椿	よつちゃん	昨日今日赤色づくめ寒椿	ゆうこ
朝毎にとても綺麗な寒椿	しの	雪の中赤鮮やかに寒椿	ちゃこ
極寒に一つ咲きたる椿かな	ぴのこ	庭石の影に咲きたる寒椿	ゆーみん
冬最中いよいよ蕾む寒椿	あきら	朝よりの雪降りしきる寒椿	いるか
朝の庭皆で見ている寒椿	ミニー	寒椿一重二重に八重に咲く	おの
寒椿見上げる先は筑波山	みく	風の中負けじと咲ける寒椿	こば
立ちすくむ小庭の寒さ寒椿	しま	寒椿なにも語らず咲いている	なん
寒椿きれいに咲きぬ今朝の庭	かよこ	寒椿花の命と思いたる	もと
寒くとも凛々しく咲きぬ寒椿	くま		

どっこい

私も生きてます～我が回復記～「ブーちゃんの回復記」

第14回

酔った勢いで彼女と二人で区役所に婚姻届けを出してしまう

依存症は寂しさの病です。寂しさから、たまたま出会った同じ依存症の異性と知り合うことはアディクトによくあることのようにです。僕もそうでした。東京都郊外の精神科病院で、僕の退院と入れ替わるように入院してきた同じアルコール依存症の女性と付き合うようになり、なんと僕達二人は酔った勢いで婚姻届けを出してしまったのです。後になって後悔する事態になりますが、酔いの衝動は押さえが効かなくなっていました。当時の僕はお酒の問題を、今度は女性に置き換えてしまいました。

僕は2010年10月にこの病院を退院し、間もなく退院した彼女と一緒にアパートに住み始めました。11、12月は自助グループ(AA)に参加していたので、二人ともお酒は止まっていた。でも、しょせんはアディクトです。次第に身勝手な判断で自助グループから足が遠のいていきました。周囲には、僕ら二人が潰れるのは目に見えていたようです。実際、危惧していたように間もなく彼女が“隠れ酒”をするようになりました。それを知った僕は裏切られたという思いが怒りへと変わり、アパートの部屋をめちゃくちゃにする行為に出てしまい、これをきっかけに僕自身も再飲酒するようになりました。

二人の飲酒は悪化するばかりでしたが、それでも彼女はアパートで一緒に暮らそうと懇願しました。でも、事態は少しも好転しません。トラブル続きなのに酔いが冷めると何事もなかったかのように元の状態に戻るものの繰り返しでした。依存症の回復には自助グループのミーティングに通うことが欠かせないのに僕達二人はサボり続けました。見かねた自助グループの仲間が、僕達の共倒れを防ごうと引き離しを促しましたが、逆に僕達は翌年1月に、酔った勢いで区役所に向かい婚姻届けを出してしまったのです。

既に彼女の方は本格飲酒状態に陥り、泥酔で道端に倒れている彼女を警察や病院に迎えに行くこともしばしばありました。当の僕はと言えば、まだ「ほろ酔い程度で済んでいる」「彼女ほど酷くはない」という根拠のない優越感で、自分の飲酒を正当化していました。ある時、彼女を病院に連れていった際に担当の医師とトラブルとなり、僕はその医師に暴力を振るってしまったのです。これで僕は病院に出入り禁止となり、彼女の方は群馬県にある依存症治療で知られる病院に治療入院することになりました。「酒をやめるためには、お互いが離れて暮らすしかない」との判断からでしたが、今度は僕の方が寂しさや自己憐憫から本格飲酒に陥ってしまったのです。

(次号に続く)

2月のバースデー

ゆたか



春一番！
まだまだ行ける 75歳！

こば



すべての人に感謝

がー



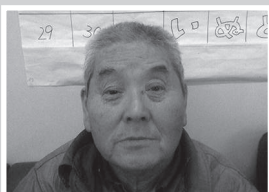
今日一日

ひら



まいど

てらしま



今日一日

たの



頑張ります。

わか



(…)

いと



70歳まで
まだまだ頑張るぞ！

2月の行事

- 2月3日 潮騒節分豆まき
 2月8日 潮騒俳句会
 2月11・17日 秋元病院メッセージ
 2月25日 潮騒家族会2月例会
 栗原センター長75歳を
 祝う会(レイクエコー)
 2月28日 南アルプス市福祉担当職員
 研修来訪

3月の行事予定

- 3月3日 栃木ダルク15周年フォーラム
 3月4日 茨城県アディクションフォーラム
 3月8日 潮騒俳句会
 3月11・17日 秋元病院メッセージ
 3月25日 潮騒家族会3月例会
 ※4月21日(土) 潮騒大運動会(白浜少年自然の家)
 5月4日(金) 白浜少年の家 ピザ作りイベント

献金・献品を頂いた方(2月15日現在)

- ・東松山市保護司研究協議会 様
- ・内堀 高良 様
- ・上田 礼子 様
- ・市毛 勝三 様
- ・ヘアーサロン木川 様
- ・松嶋 定雄 様
- ・菊池 洋一 様
- ・田口 生一 様
- ・坂西 学 様
- ・川口 泰延 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。

今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。
 ※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。
 どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記という名の独り言

もしかして栗原さんは自身75歳の誕生を祝うイベントに、生前葬と遺言状の意味合いを込めたのではないかと。栗原さんと10年近くになる付き合いから、僕はそう確信している。自らの「老い」と謙虚に向き合い、身も心も「正常」なうちに潮騒の次なるビジョンに向けて、スタッフや仲間達に「そろそろバトンタッチを意識せよ」「出でよ、私に替わる次のリーダー!」という、暗黙のメッセージを込めたように思う▼後期高齢者の仲間入りという節目の年齢を迎えたとはいえ、対外的なイベントとして大袈裟に誕生を祝うことには、栗原さんにためらいや恥じらいがあったはずだ。あえてその殻を破ったところに、僕は栗原さんの不退転の決意を感じる。もともと潮騒が生まれた背景には、ダルクから理不尽に「仲間外れ」にされてきた栗原さんの苦い経験が下地にある▼栗原さんは持ち前のバイタリティーとリーダーシップで、この荒波を乗り越えてきた。農業を核にした就労支援に特化する方向で、依存症の世界に新たな地平を切り開いてきたのは周知の通り。これにより入寮者が増大すると施設規模も拡大させ、もはや潮騒はその内実においてダルクの枠には収まりきらない陣容となっている。当然ながら予測できないリスクも大きくなっている事は、栗原さんも承知の上だろう▼75歳を祝うイベントの最後の挨拶で、栗原さんは潮騒の今後をうらなう二つのポイントを暗示した。一つは依存症をも包括する多様で困難な障害を持つ人達への居場所としても、潮騒を機能させる事。もう一つは曲がり角にある家族制度を超える、新たな「擬似家族共同体」とてもいべき施設ビジョンへと潮騒を飛躍させる方向。栗原さんの挨拶は、この壮大な実験へと我が潮騒丸の舵を切る決意を込めたように受け取れた▼ダルク創設者の近藤恒夫さんは「生き残りを考えなくていい」と言うけれど、栗原さんは今が次なるビジョンへの決意表明のタイミングと考えたのではないかと。当事者活動の原点を生かしながら、栗原さんは制度のはざままで苦しむ人達の救済活動へと、潮騒の施設概念を拡張しようとしている。時代や社会が閉塞し、誰も次代の生きるビジョンを打ち出せずに喘いでいる中、アジアの片隅で名づけようもないコミュニティづくりに挑もうとする潮騒。どうか栗原さんには生涯現役でリードしてほしい。(市)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2018年2月

Contents

- P② クリーンを重ねた「老い」は勇気と希望を与える
 P③ 東松山市保護司研究協議会の一行14人が来所
 ～研修で潮騒独自の就労支援や介護事業に新鮮な印象を抱く～
 P④ センター長 栗原豊 75歳おめでとう!
 P⑥ 北関東アディクション関連問題検討会
 依存症者向け介護サービス「百寿」の事業も紹介
 P⑧ 近藤恒夫インタビュー 第8回
 「回復した仲間が外からダルクを支える流れにはならなかった」
 P⑩ 受刑者からの手紙
 P⑫ しおさい俳壇 2月のお題「寒椿」
 P⑭ どっこい私も生きてます「ブーちゃんの回復記」/2月のバースデイ
 P⑮ 行事予定 / 編集後記 / 献金・献品 / 目次



■編集・発行:

特定非営利活動法人
 潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
 TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒アディクションビレッジ会館
 (潮騒アディクション・ケアセンター)
 〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 4-4-5
 TEL:0299-95-9991 FAX:0299-95-9992

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp
 ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

